

## 巻 頭 言

### 新見公立短期大学紀要第20巻記念号の発刊によせて

学長 新 居 志 郎

新見女子短期大学紀要は、本学創立の直後に発刊され、以来大学の歴史と共に歩みを続けて今日に至っている。

今回の紀要は、平成11年4月の校名変更に伴い、また大学創立20周年の節目の時期に遭遇することもあり、新見公立短期大学紀要第20巻記念号の名称のもとに発刊する運びとなった。本紀要の今日に至る発展を心から祝福し、同時にその育成に携わってこられた関係各位のご尽力に、心から敬意と謝意を表する次第である。

教育と研究は車の両輪といえる。教員各自の研究への情熱は、ひるがえって学生に対し知的好奇心を呼び起こし、勉学意欲を向上せしめる原動力となる。本紀要は本学教員の研究活動の反映でもあり、掲載論文の内容は本学の研究レベルの指標と見なすことができる。紀要の刊行は、研究成果の公表の場として本学の重要な機能の一翼を担う。また、発刊自体が教員の研究意欲を促進し、さらに若手教員の研究能力を育成する役割を果たしている点も見逃すことはできない。

本記念号においては、「新見公立短期大学における紀要のあゆみ」と題する現編集委員会による一文があり、本学紀要の経緯と現状の概略、並びに今後の課題と情報化時代への対応について述べられている。

また、過去にさかのぼっては、創刊号と5年毎の記念号に当時の学長による巻頭言が掲げられており、その所信と抱負には熱意を彷彿させるものがある。他方、一般的な問題点として、予算の制約、年一度の発行、専門領域の拡散、読者層の限定などが従来より指摘されている。これらについては、単一大学の刊行雑誌としてやむをえない事情もあり、今後は掲載論文のホームページへの登載など、情報普及の努力により、問題点のいくつかの是正もしくは改善が可能と考えられる。

第20巻記念号の発刊に当たり、特に次のことを述べておきたい。まず一般論として、現在国内の各大学は、戦後の新制大学への転換期に次ぐ大きい改革の波に遭遇している。平成10年10月に提出された大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」にみるように、各大学は競争的環境の中にあり、それぞれに将来像を描いて改革を進めるべき重要な時点に立っている。

申すまでもなく、大学改革とその発展の基盤として、教員の旺盛な活力が必要である。したがって、本学においても各教員が自らを活性化し、各種の分野において研究の積極的推進を図ることが切に望まれる。紀要の質的向上が、これらの結実としてもたらされることを期待する次第である。

紀要の発展について望みたい具体的事項の第一は、独創性豊かな研究論文がより多く投稿されることである。研究の課題と内容は、特定領域に限っても時代の変遷と学問の進展に応じて異なりうるものであろうが、いたずらに流行に左右されることなく、独創性豊かで特色のある論文を歓迎し評価したいものである。

第二に望むことは、国際化時代に対応する内容をもつ論文の増加である。本学教員においても海外との学術交流や海外研修の機会が漸次増加しつつあることから、これらの学術情報を従来にも増して多く紀要に織り込み、内容を多彩にし魅力的なものにしていただきたい。一方では地域に開かれた大学として地域的特色を示すと共に、他方では国際色が具備されることを期待している。

最後に、第20巻記念号の発刊に当たって、ご尽力下さった編集委員を始めとして、査読者並びに投稿者、さらに常日頃紀要の刊行にご支援下さっている方々に衷心より謝意を表する次第である。